

浜通り地域等の現在地と復興の絵姿

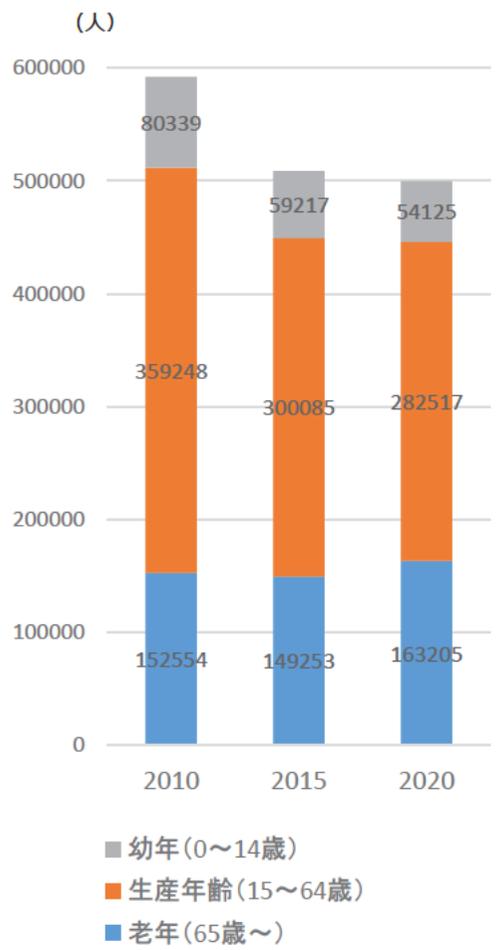
令和6年6月24日

経済産業省 福島復興推進グループ^o

未曾有の複合災害の影響

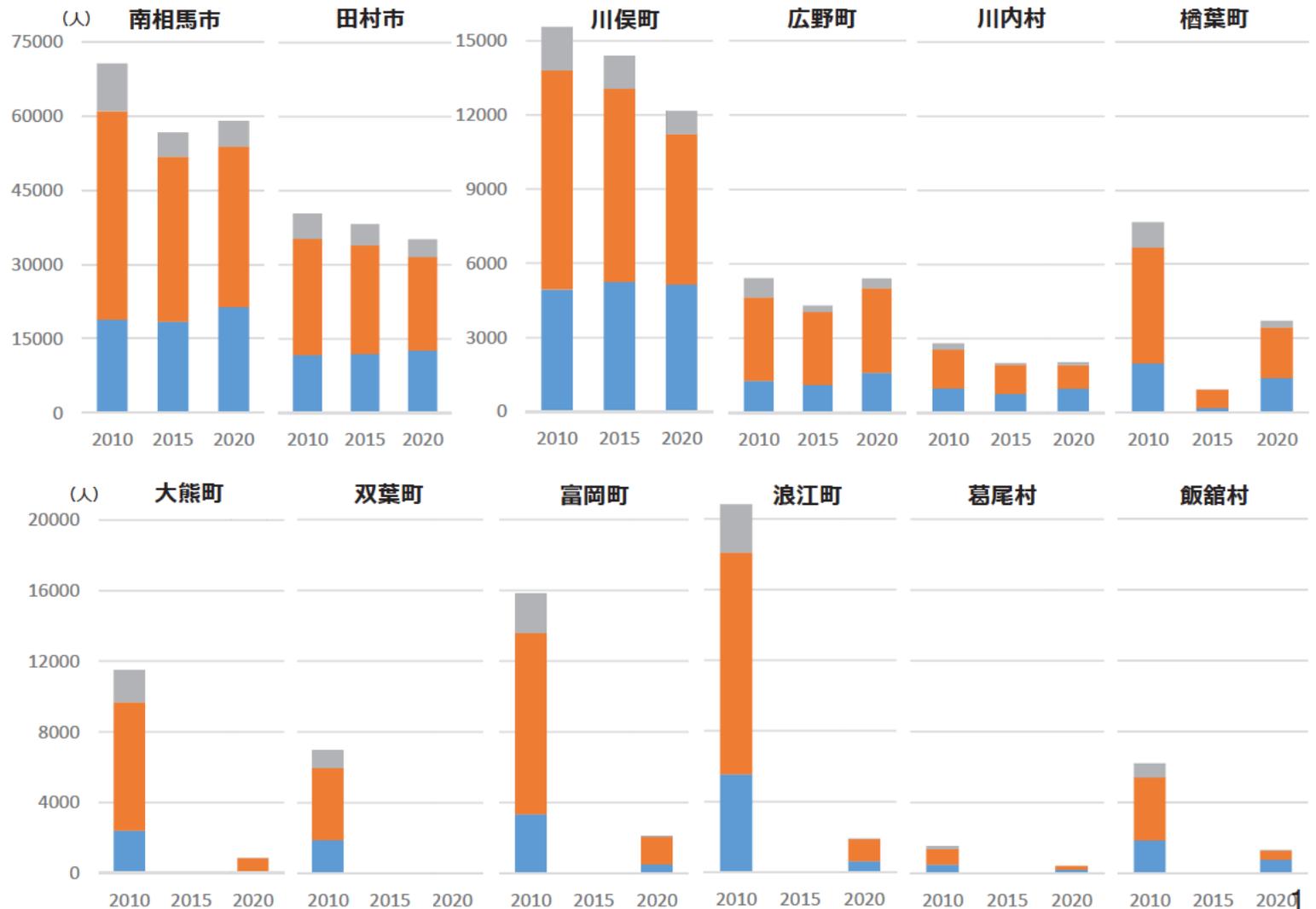
- 地震・津波と原発事故という未曾有の複合災害により、最大で約16万5000人が福島県内外へ避難。避難指示解除が進み、一定程度避難者が帰還するも、高齢化が進展。
- 医療・福祉・教育をはじめとする生活に不可欠な公共サービスについては、特に人口減少の著しい自治体を中心に、事故前と同様のサービスを提供することが難しくなっている。

居住人口の推移（15市町村計）



(出所) 国勢調査

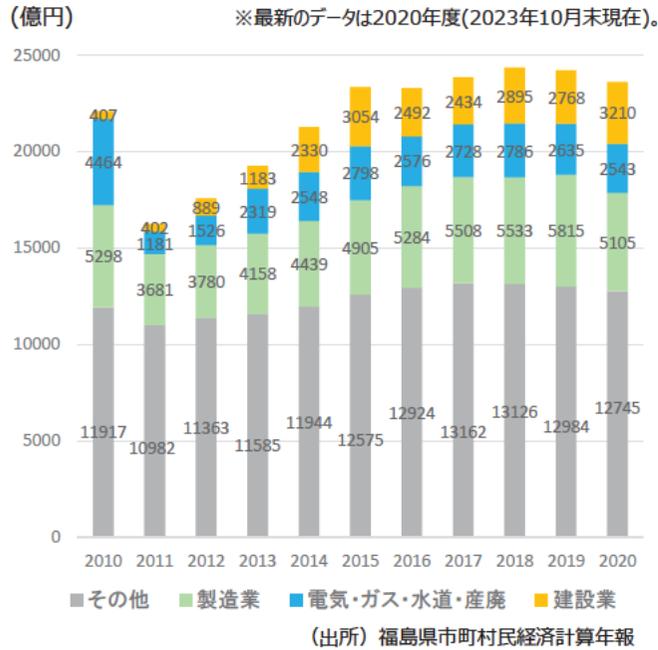
被災12市町村の居住人口の推移（2010~20年度）



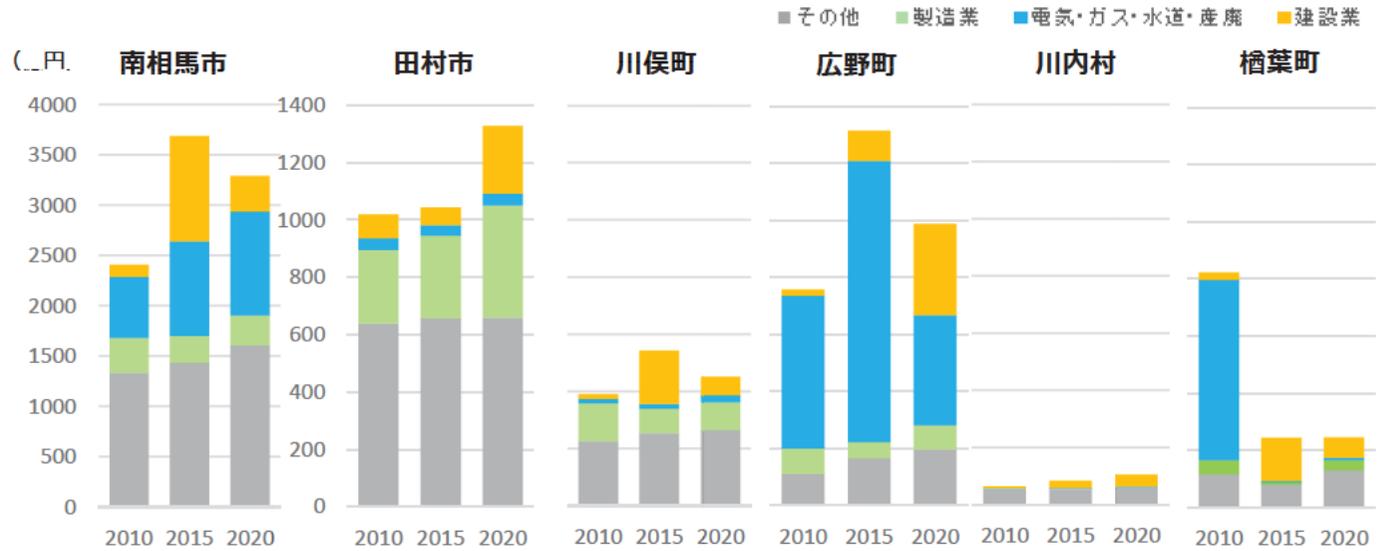
産業復興の現在地

- 主な産業であった原発関連産業や農林水産業等に大きな打撃。風評被害も含め、ゼロからではなく大きなマイナスから復興がスタート。**小売・飲食・宿泊等の生活を支えるサービスを担う事業を含め、帰還再開は全体として頭打ちとなっている。**
- また、**避難指示解除の時期により復興のステージは大きく異なり、解除が遅れるほど帰還のハードルも高まる。**

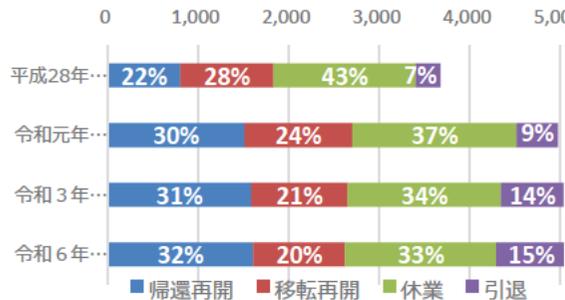
総生産の推移（15市町村計）



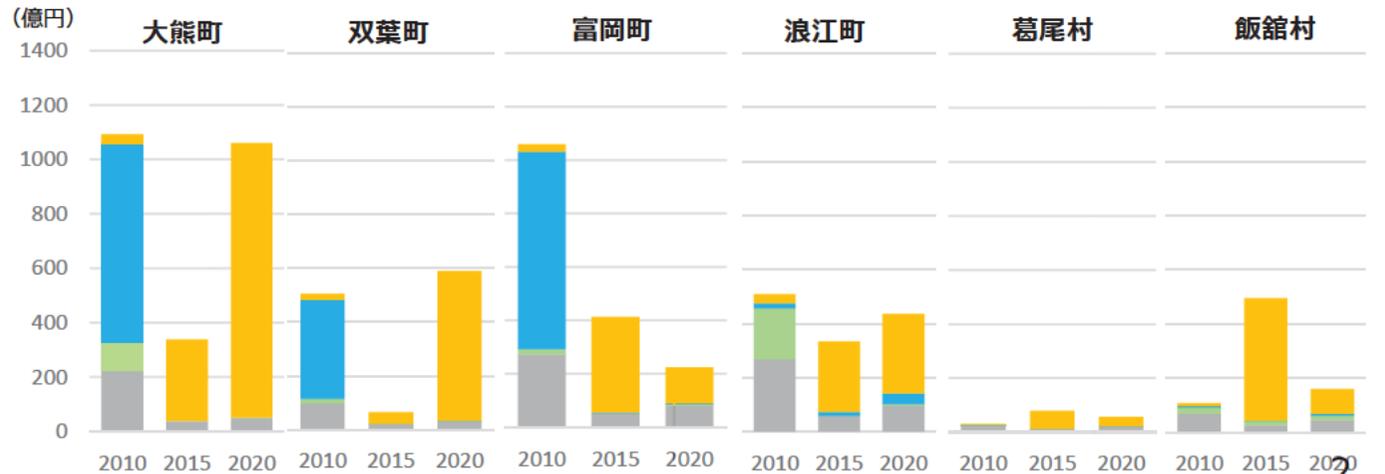
被災12市町村別の総生産の推移（2010~20年度）



被災12市町村の事業者の再開等の状況



※大熊町・双葉町は5%未満、富岡町・浪江町は10%程度の帰還再開率となっている。



産業・生活サービスにおいて生まれている新たな芽

- **避難指示解除から日の浅い地域については、インフラ整備を含め復興はこれからであるが、地域の懸命な努力や自立補助金・イノベーション補助金等の効果により、福島イノベーション・コースト構想の重点6分野で新たな産業の芽も出つつある。中には、日本あるいは世界の課題解決に貢献するものもみられ、公共サービスにおいても、社会課題を先取りした先進的な取組が生まれている。**

エネルギー・環境・リサイクル

◆豊通リチウム（楡葉町）

- 主に**車載用リチウムイオン二次電池の原料となる、水酸化リチウムの製造**を行う（国内需要の25%）。
- 脱炭素社会実現のために大きな役割を持つ次世代自動車（電気自動車等）市場の発展に寄与することが期待される。

◆次世代グリーンCO2燃料技術研究組合（大熊町）

- **トヨタ自動車をはじめとする民間6社が参画。**
- **エタノールの効率的な生産システムの研究や、燃料活用を含めたシステム全体の効率的な運用方法の研究等を行い、グリーンCO2燃料の効率的な製造を目指す。**



※イメージ

農林水産業

◆高ライスセンター（南相馬市）

- **乾田直播栽培やスマート農機の活用により、作業の分散と効率化を図り、大規模な営農を実現。**
- **ほ場管理システムの活用**により、年間作付計画や栽培履歴等を一元管理。
- 設立当時から加工販売に取り組む乾麺うどんは地域を代表する**6次産業化**商品。

◆ベルグ福島（川俣町）

- **植物ワクチンの開発及びワクチン接種苗の実用化を実施。**
- **世界初の複数種ワクチンや、土壌伝染性のカビを防除する植物ワクチンの開発及びその接種苗の大量生産システムの開発導入を目指す。**



検定温室：
・ワクチン効果試験
・安全性試験

ロボット・ドローン

◆OKUMA DRONE（大熊町）

- **水素燃料ロボット（陸・海・空）の研究開発**および、水素燃料ロボットを活用した社会課題解決に役立つ事業の企画開発を行う。
- **水素エネルギー活用を軸に、特殊用途の産業用ドローンやロボットの研究開発及び自動運航管理システムを開発中。**

◆人機一体（南相馬市）

- **ロボット重機等の開発**を行う立命館大学発ベンチャー企業。JR西日本等と共同で、**実際の線路における高所作業に対応した人型重機の実証**を実施。
- 福島ロボットテストフィールドに入居後、現在は、南相馬市産業創造センターに入居し活動。



教育

◆学び舎ゆめの森（大熊町）

- 小中一貫の義務教育学校と認定こども園が一体となっており、**0歳から15歳まで一貫して学ぶことができる。**
- **フェンスがなく町とつながっている、自分の教室をつくらず学び舎全体が学びのスペースとなっている、チャイムがない、子供たちが自ら時間割を組み立てる**などの特徴を持つ。



となると、集中できる2時間目なんてどう？

交通

◆なみえスマートモビリティ（浪江町）

- 日産自動車が、**誰でも利用が可能な移動サービス「なみえスマートモビリティ（スマナビ）」**を提供。
- 実証では、浪江町全域を実証フィールドとして活用し、人工知能（AI）により走行の効率化（できる限りまとめて送迎するなど）を図る運航管理システムを開発。



浜通り地域等における関係人口の活動の広がり

- 浜通り地域等の復興に主体的に携わりたい、地域の社会課題解決のフロンティアでの自由なチャレンジに魅力を感じるといった観点から、福島県外からの移住や創業、企業立地を決意する若者や企業も出てきている。
- 副業・兼業や場所を選ばない新しい働き方の流れもあり、交流人口を超えた関係人口ともいえる活動が活発化している。

haccoba (南相馬市)

- 避難指示の影響により、一度人口がゼロになった南相馬市小高区で酒造りにチャレンジすることで、社会へのメッセージを投げかけたいとの思いから進出。
- 創業補助金を活用の上、小高区にあった民家を改良し、酒蔵とバーをオープン。「酒」というツールを通して新しいコミュニティを創出し、社会課題に思いをはせるきっかけづくりを目指す。



小高ワーカーズベース (南相馬市)

- 成熟した日本社会において前人未踏のフロンティアでチャレンジできる浜通り地域等に可能性を感じて進出。
- 「地域の100の課題から100のビジネスを創造する」をスローガンに掲げ、創業支援やコミュニティ創出を実施。多様なローカルビジネスの創出を通じて、地方から自立的で持続可能な地域社会の実現を目指す。



一般社団法人HAMADOORI13

- 「まちづくり・産業づくり・人づくりは次世代を担う若者自らが行わなければ真の復興はないのではないか」という思いから、浜通り地域等の市町村の枠を超え集まった若手経営者の連携組織として設立。
- 現在の会員数は約200名であり、次世代に向けた人材育成の一環として、若者の起業や新規事業活動を支援する「HAMADOORIフェニックスプロジェクト」を中心に、交流人口の拡大などに取り組む。

浅野燃糸 (双葉町)

- 現地見学ツアーや双葉町からの熱意ある企業誘致活動に加え、学生時代を過ごした福島に恩返しをしたいとの思いから進出を決意。
- 燃糸工場に加え製品販売店やカフェを併設した観光複合施設（工場見学、ショッピング、飲食等）とすることで、雇用創出のみならず交流人口拡大を目指す。



カフェ・休憩エリア



復興の絵姿

- 浜通り地域等が、未曾有の複合災害を乗り越え、日本・世界の社会課題を解決する先進地として生まれ変わるというストーリーに共感した人々や企業が継続的に集まり、これらの移住者や関係人口と帰還者が協働する、賑わいと活力のあるイノベティブで暮らしやすい地域となった時、はじめて創造的復興を実現したと言える。
- そのため、まずは全ての前提となる「生活者の日々の暮らし」を再建し持続させるとともに、帰還・移住者に加え、個人・企業をはじめとする「交流人口・関係人口を拡大」しながら、コミュニティの再構築や地域の賑わい・イノベーションの創出を行い、「地域の稼ぎ」に繋げることで、浜通り地域等が自立的・持続的な経済発展を遂げていくことを目指す。



解決すべき課題・対応の方向性

- 帰還者・移住者・関係人口含め、安心して暮らすことのできる地域となるよう、公共・生活サービスの再建やまちづくりを行う必要がある。その際、自治体による公的サービスだけでなく、それを補完する民間主体の活動や暮らしに生きるイノベーションの創出も積極的に支援し、活用する。
- また、福島イノベーション・コースト構想を更に進め、持続的なイノベーション創出、民間投資が行われ、地域の稼ぎを生み出す必要がある。地域における産業の特性を活かし、日本や世界の課題を解決する先進的な取組を支援する。

目指していく姿：浜通り地域等の自立的・持続的な経済発展

たたき台

①・②・③：地場産業の革新で先進地へ

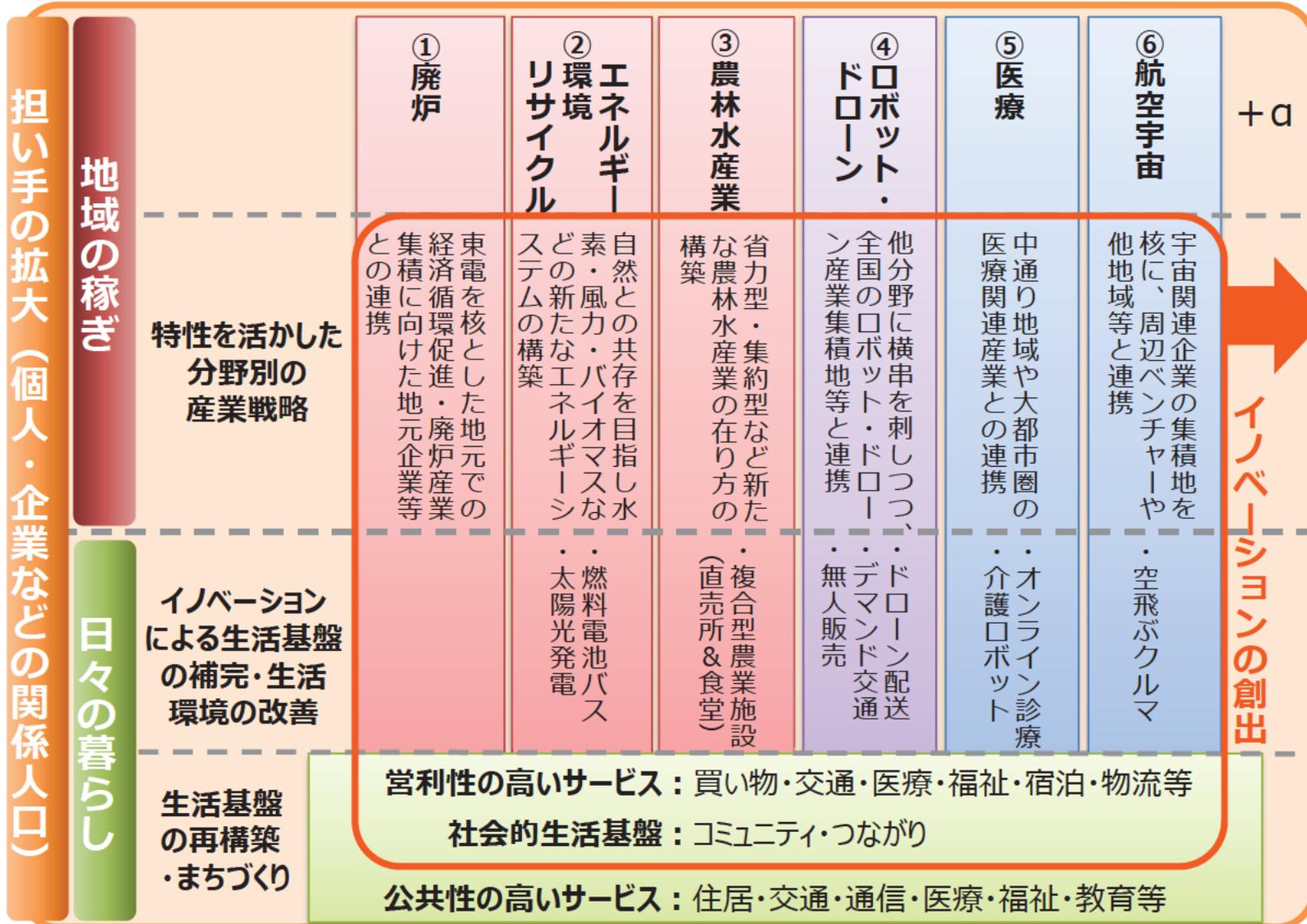
震災前の地場産業を新たな形で再生させ、地域の稼ぎを支える産業へ成長させるとともに、複合災害を乗り越えた唯一の地域として、地方創生モデルを発信することで、新たな企業を積極的に呼び込む。

④：横串としてイノベーションの加速へ

ツールとしての側面を活かし、他分野に横串を刺すことで、イノベーションの創出を促進。震災後、浜通り地域等で新たに芽が出た分野として、ロボット・ドローン産業集積地等と広域的に連携し、相乗効果を図る。

⑤・⑥：地域間連携で企業群の育成へ

中通り地域や大都市圏等、福島県内外の地域と連携しながら、地域に根差し、ベンチャー等の集積の核となる企業群を育てるとともに、その成果・効果を広域に波及させる。



ストーリーの発信で脈々と人・企業が集いイノベーションが創出される好循環へ

・地域の稼ぎとなる先進的なイノベーションから、暮らしを支える身近なイノベーションまで、浜通り地域等で生まれた社会課題解決モデルを日本・世界に発信。
 ・複合災害を乗り越え、社会課題を解決する先進地として生まれ変わるストーリーに共感・共鳴した企業や人が自然と集まり、新たなコミュニティや更なるイノベーション、芸術分野で生まれつつあるアーティストがアーティストを呼び込むエコシステム、「この地ならではの」コンテンツ・魅力による交流人口・関係人口が創出されるという自立的な好循環を生み出す。

ビジネスによる補完で持続可能な地域へ

広域的に公共サービスを補完するビジネスを取り入れながら生活環境の改善・まちづくりを行うことで、帰還者が安心して帰還でき、起業家など新たなプレイヤーが参入できる環境を整備し、持続的な地域となることを目指す。

(参考) 現在の主な支援策の整理

産業

- 実用化開発補助金によるスタートアップ企業の呼び込み・イノベーション創出の促進
- 企業立地補助金を通じた工場新設・雇用創出・産業集積の促進
- 競争的・魅力的な実証フィールドの整備 (例: 福島ロボットテストフィールド)
- イノベ機構による地元企業と進出企業のマッチング支援や産業人材の育成・確保
- F-REIによる研究開発等の促進

両領域に効果をもたらす施策

- 「浜通りならではの」コンテンツ作成 (例: 酒・グルメ、サイクル) や芸術文化を通じた魅力あるまちづくり (例: アーティスト・イン・レジデンス)、情報発信等を通じた交流人口の継続的な拡大
- 加速化交付金による生活環境整備を通じた帰還・移住の促進
- 官民合同チームによる事業再開・創業支援やまちづくりの支援
- 事業再開・創業を行う事業者への補助や学生・社会起業家・スタートアップ等の呼び込み
(例: 大学生観光まちづくりコンテスト、復興グランプリ)
- 民間企業等の知見やテクノロジーの活用による生活環境の向上 (例: 浜通り復興リビングラボ)

生活・なりわい再建

※今後の支援の在り方については、実ニーズも踏まえつつ、今後関係省庁と議論していく。7